

「港南台九条の会」

2007年11月20日

作家の大江健三郎氏など9名の方々が2004年に「平和憲法九条を守ろう」と呼びかけた。日本の政治状況が戦争に向かっているという危機感があったからである。それに応えて、現在、全国に7,500もの「九条の会」ができています。日本で初めて生まれた、草の根の市民運動である。「港南台九条の会」がすぐに立ち上がった。私は当初からメンバーに加わっている。教会在任中は忙しく、集会に参加するだけであったが、隠退してからは「根岸線沿線九条の会」にも加わり、積極的に関わっている。

「港南台九条の会」は毎月第四土曜日の午前10時から、地区センターで「平和の語り部」として、色々な方々に戦争と平和について語る機会を催している。戦前、戦中の人々には戦時中の悲惨な経験や戦後の苦難、戦後の人々には現在の平和への思いを語ってもらっている。時々、憲法や時事問題などに関し、専門家を招いて学習会を持っている。

憲法記念日の3日には毎月、港南台駅前で「アベ政治を許すな」のプラカードを首にかけ、スタンディングをし、「九条守れ」のリレートークと署名活動をしている。反応は今一つであるが、変わらぬ地道な活動を続けている。

毎月、「港南台九条の会 ニュース」を出し、現在142号までになっている。出版関係のA氏とN氏がいて、二人の努力で続いている。「平和の語り部」「学習会」をまとめ、会のメンバーの平和への思いを代わる代わる掲載している。142号で、私は「憲法9条はアジアの平和、世界の平和を作る」と題して下記のような思いを綴った。転載したい。

憲法公布記念日の11月3日、「安倍9条改憲NO!全国市民アクション」が主催する「国会包囲大行動」が行われ、4万人が集まって、「憲法守り、生かせ」の声を挙げた。安倍政権と真正面から対決する「立憲民主党」を立ち上げた枝野幸男氏やノーベル平和賞を受賞した「アイキャン(核兵器廃絶国際キャンペーン)」の国際運営委員会の川崎哲氏などが力強いスピーチをされた。

私は韓国から見たキム・ヨンホ氏が日本語で話されたスピーチに感動した。彼は朴槿恵政権を倒したキャンドル革命に尽力したリーダーである。外国人がなぜと思うかもしれないが、9条は日本だけのことではなく、アジアと世界の問題だと話し始め、戦前、戦後の締めくくりとして9条が生まれたと言われた。この発言には深い意味がある。2000万人以上の死者を出し、取り返しのつかない被害を与えたアジア・太平洋戦争の戦争責任の謝罪を込め、戦争をしない、平和を目指す国としての憲法だと、アジアの諸国は安心して受け止めた。だから、憲法を改定して、再び軍国主義化してはならないと強く訴えたのである。9条はアジアの平和を作り、世界に平和を発信する重要な意味を持っている。

非戦・平和の憲法は米国軍人・マッカーサーが発想できるものではなく、無残な敗戦を経験した日本人から発案されたものである。憲法が公布された時、日本人は300万人の死者を出した悲惨な戦争は二度としないと大歓喜した。現在の改憲には米国の強い要望が働いている。改憲したら、何十年後、あれは米国の圧力であったということになるだろう。米軍と一体化して戦争できる国にしようとする安倍政権の改憲を、平和を願う国民の声で阻止しようではありませんか。

九条の問題は、もちろん日本の平和問題であるが、私は、アジアと世界の平和に関わる重要なことであると思っている。九条が改定されると、戦争責任が反故にされ、アジアが不安定になり、世界平和が壊されていくと深い危惧を抱いている。